

総合内科

部長 中山 修一

はじめに

当科は救急診療に強い総合診療医育成を目指し 2014 年 1 月に杉本 和彦医師により総合診療科として開設されました。2015 年 2 月には浅羽医師が、2019 年 7 月から中山が加わり、開設当初から、主に救急科（ER 科）、内科の先生方と協同で、救急車で来院される患者さんや歩いて救急外来を受診される患者さんを診療し、学生や研修医の指導を行って来ました。2020 年 6 月に杉本医師が退職され、2021 年 4 月から消化器内科の市川 博源部長が総合診療科に移籍され、内科専攻医の岸本 浩一郎医師が加わったことで、内科系の総合診療を行う総合内科に名称変更されました。現在もその名称を引き継いでおります。2023 年度末をもって市川部長が退職されましたが、2025 年 7 月よりリウマチ膠原病内科の吉田医師が参加。現在は中山および浅羽部長、吉田科長の三人態勢となっております。また高知大学医学部 内分泌代謝・腎臓内科より後期研修医の派遣をうけており、2025 年度は井萱医師が来ておりました。

外来診療

中山が月曜日、木曜日、金曜日に外来を行っています。浅羽部長は火曜日と水曜日に外来を、吉田科長は月曜日、火曜日、木曜日、金曜日に外来を行っています。前述の通り現在は 3 名体制となっております、中山は総合内科に加え、肥満診療やリウマチ・膠原病疾患を、吉田科長は外来では主にリウマチ・膠原病内科の診療を行っています。総合内科への紹介患者数は 2024 年の 127 名から 2025 年は 251 名へと大きく増加しております。浅羽部長や吉田科長、中山の専門領域のみならず、不明熱や不定愁訴など診断に難渋する患者さんの紹介も受けており、可能な限り正確な診断を行い、必要であればしかるべき専門科に紹介することを心がけております。これからもご紹介頂いた患者さんを我々が正しく診断し適切な診療科に院内紹介したいと思っております。

入院診療

2019 年からは入院診療を開始しました。入院患者数は 2019 年には 227 名でしたが、2020 年には 270 名、2021 年には 498 名、2022 年には 589 名となりましたが、2024 年は 345 名となりました。2025 年は 288 名と前年比減少しておりますが、これは高齢者の誤嚥性肺炎や尿路感染症などを他科の若手の医師も担当してくれるようになった影響と考えております。疾患別で低 Na 血症などの電解質異常や糖尿病性ケトアシドーシスなどに加え、成人発症 Still 病や血管炎などの自己免疫疾患、その他脱水症、蜂窩織炎、良性発作性頭位めまい症の患者さんなども担当しました。入院診療は浅羽部長の糖尿病・内分泌内科や、吉村部長ならびに宇都宮科長の腎臓内科と協力して診療に当たっています。当科は研修医の受け入れは行っておりませんが、糖尿病・内分泌内科ならびに腎臓内科は研修医を受け入れておりますので、面白い症例があれば適宜研修医にも担当して貰っています。

今後の展望

4 月より井萱医師に代わり鈴木医師が高知大学医学部 内分泌代謝・腎臓内科より派遣されます。また昭和医科大学より福成医師も専攻医として当科に来てくれる事となりました。引き続き「病気を診ずして病人を診よ」をモットーとして、今後も全人医療を行い、専門領域に拘らない医療を行うよう心がけたいと考えております。

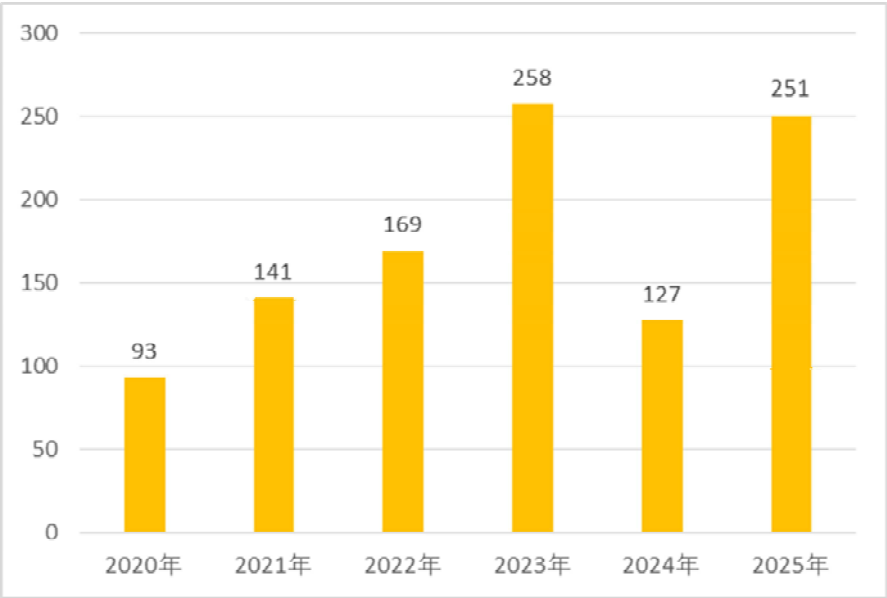


図 1 総合内科への紹介患者数

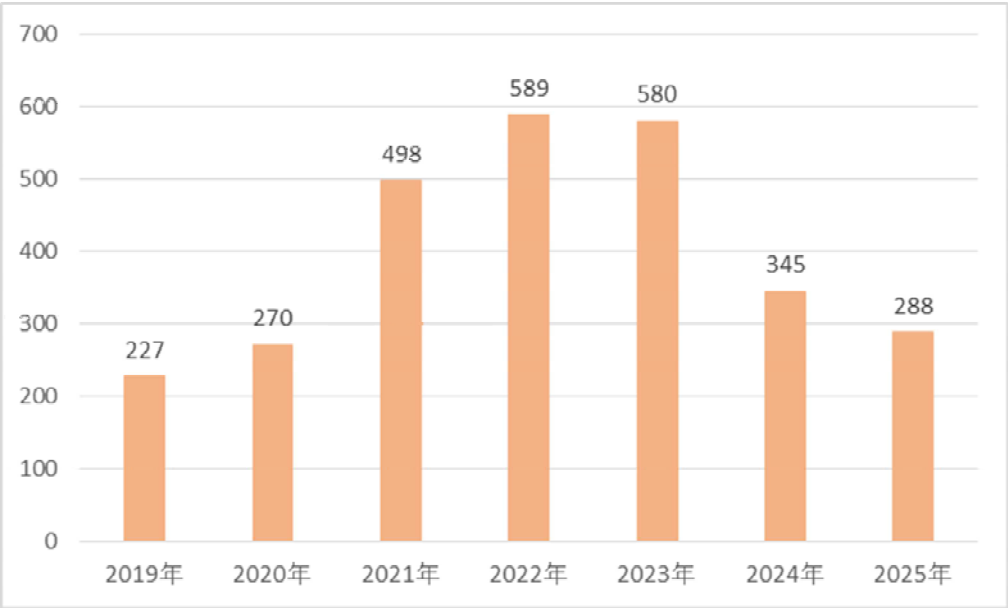


図 2 総合内科・入院患者数

学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
腎機能に応じた減量にも関わらず発症したセフェピム脳症の一例	森本 優子、葛目 大輔、山崎 正博、細見 直永、小松 優香、中山 修一	第 132 回日本内科学会四国地方会	5 月 25 日 高知
紫斑のない IgA 血管炎の 1 例	李 聖一、岡田 光生、宇都宮 慧、吉村 和修、中山 修一、中嶋 絢子	第 78 回高知県医師会医学会	8 月 16 日 高知

Diagnostic Efficacy of combined Analysis of Muscle Echo Intensity and Texture features in Ultrasound Imaging of Myositis	Yoshida T, Yamazaki H, Takamatsu N, Taniguchi Y, Nozaki T, Inoue M, Kumon Y, Matsumoto Y, Harada M, Nishino I, Mecoli C, Paik J, Christopher-Stine L, Albayda J, Izumi Y	APLAR 2025 27th Asia-Pacific League of Associations for Rheumatology Congress	9月3日 ～7日 福岡
不明熱の精査にて甲状腺 MALT リンパ腫と診断した1例	井萱 俊希、中山 修一、浅羽 宏一	第25回日本内分泌学会四国支部学術集会	9月6日 香川
偽性クッシング症候群を合併した肺非結核性抗菌症の1例	浅羽 宏一、中岡 大士、松田 莉奈、井萱 俊希、中山 修一	第25回日本内分泌学会四国支部学術集会	9月6日 香川
当初巨細胞性動脈炎が疑われ、ステンドグラフト感染との鑑別を要した胸部大動脈瘤術後切迫破裂の一例	中山 修一、吉田 剛、公文 義雄	第36回日本リウマチ学会中国・四国支部学術集会	10月4日 ～5日 香川
糖尿病透析予防指導を行い腎機能が維持している2型糖尿病患者への療養支援	岩井 千代美、浅羽 宏一、中山 修一	日本糖尿病学会中国四国地方会第63回総会	10月31日 ～11月1日 愛媛
精神科単科の病院と連携して血糖コントロールを行った1例	伊與田 美香、浅羽 宏一、中山 修一	日本糖尿病学会中国四国地方会第63回総会	10月31日 ～11月1日 愛媛
糖尿病性ケトアシドーシスで救急搬送された40歳代2型糖尿病男性患者4例の検討	池田 裕菜、浅羽 宏一、井萱 俊希、中山 修一	日本糖尿病学会中国四国地方会第63回総会	10月31日 ～11月1日 愛媛
免疫チェックポイント阻害薬により糖尿病を発症した2例	井萱 俊希、中山 修一、浅羽 宏一	第35回臨床内分泌代謝 Update	11月7日 ～8日 長野
眼瞼下垂と眼球運動障害、急速進行性の筋力低下を呈した Immune Checkpoint Inhibitor-Related Myositis	吉田 剛	第55回日本臨床神経生理学会学術大会 第62回日本臨床神経生理学会技術講習会	11月13日 ～15日 沖縄
脂肪肝による急激な肝腫大を伴ったアルコール性膵炎患者に発症した糖尿病性ケトアシドーシスの1例	秋澤 麗菜、浅羽 宏一、大川 良洋、井萱 俊希、中山 修一、栄枝 弘司	第133回日本内科学会四国地方会	11月29日 香川

論文発表・著書

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ
Practical utilization of sonography for the assessment of muscle diseases in rheumatology.	Yoshida T, Albayda J	Best Practice & Research Clinical Rheumatology Elsevier	Best Pract Res Clin Rheumatol . 2025 Sep;39(3):102055.
Evaluation of the diagnostic performance of brachial plexus ultrasound in amyotrophic lateral sclerosis.	Yamazaki H, Takamatsu N, Matsubara T, Tani M, Fukushima K, Yoshida T, Osaki Y, Oki R, Fujita K, Nodera H, Izumi Y.	Best Practice & Research Clinical Rheumatology Elsevier	Clin Neurophysiol . 2025 Jul;175:2110741.
Diagnostic Evaluation for Myositis and Their Pitfalls.	Yoshida T, Albayda J	Best Practice & Research Clinical Rheumatology Elsevier	Rheum Dis Clin North Am . 2025 Nov;51(4):577-594.